

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（6月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、6月8日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「このところ観光や個人消費を中心に東日本大震災に伴う影響が続いている」としました。

震災による景気下押し圧力は、耐久消費財を中心とした消費面で引続き大きなものとなっています。4月の道北地域の新車登録台数は、震災による自動車生産の大幅な落込みから納車が遅れ、極めて大幅な（△61.4%）減少となりました。3月の減少幅（△34.3%）も1990年の統計作成開始以来最大でしたが、4月はそれを更に大きく更新しました。また、大型店売上高や空港利用客数、旭山動物園入園者数も引き続き減少しました。ただし、新車登録台数を除けば4月の減少幅は3月に比較し縮小したほか、観光についても客単価は下落したものの、連休中は道内観光客を主体に宿泊客数はまずまずだったとの声が聞かれるなど、震災直後の状況に比較すれば、少し落ち着きを取り戻してきている様子もうかがわれます。

今後について、自動車販売は当面大幅な減少が続くものの、減少幅は生産の回復とともに縮小に向かう見込みです。もっとも、5月の大型店売上高は天候不順もあって、大きく改善することはなさそうです。また、連休明け後、再び観光客の動きが鈍っていることは気掛かりです。震災直後にみられた極端な消費マインドの冷え込みについては、徐々に解消に向かうきざしもみられますが、震災の影響に関する不確実性が高いこともあって、消費マインドが一気に明るさを増すという訳にはなかなかいかないようです。

この間、製造業では高機能商品への需要シフトから生産を減少させている先もあります。部材調達のボトル・ネックが徐々に解消しつつあるほか、一部では東北地方の工場被災に伴う代替需要や復旧需要から増産の動きがみられています。

震災の影響とは関係ありませんが、農作物について、5月の低温や断続的な降雨の影響から特に畑作で植え付け・移植作業が遅れ、生育も遅れています。今後の気温の上昇に期待したいところです。

一方、住宅投資（下げ止まっている）や雇用環境（改善の動きがみられており、厳しさの程度は幾分和らいでいる）は、前月までと変わりありません。

個別の動きについて一言コメントすると、下記の通りです。

- 個人消費では、耐久消費財を中心に震災の影響がみられており、引続き弱い動きとなっています。4月の新車登録台数（含む軽乗用車）は、震災に伴う自動車生産の大幅な落込みから納車が遅れ、前年同月を大幅に下回りました（△61.4%）。3月の減少幅（△34.3%）も1990年の統計作成開始以来最大でしたが、4月はそれを更に大きく上回りました。4月の大型店売上高は、身のまわり品、宝飾品等が不振であったことから、前年を下回りました（△2.1%）。

4月は新車登録台数を除くと減少幅は3月に比較し小幅となった指標が目立っています（＜大型小売店：4月△2.1%、3月△3.9%＞、＜空港利用客数4月△24.9%、3月△28.2%＞、＜旭山動物園の入園者数4月△3.0%、3月△34.7%＞）。震災直後にみられた極端な消費マインドの冷え込みについては、徐々に解消に向かうきざしもみられません。

今後について、自動車販売は当面大幅な減少が続くものの、減少幅は生産の回復とともに縮小に向かう見込みです。もっとも、5月の大型店売上高は天候不順もあって、大きく改善することはなさそうです。また、連休明け後、再び観光客の動きが鈍っていることは気掛かりです。震災直後にみられた極端な消費マインドの冷え込みについては、徐々に解消に向かうきざしもみられますが、震災の影響に関する不確実性が高いこともあって、消費マインドが一気に明るさを増すという訳にはなかなかいかないようです。

このうち当地でウエイトの高い観光の状況をやや詳しくみると、連休中、客単価は下落したものの、インバウンド観光客や道外観光客の落ち込みを「安・近・短」の道内観光客が補いました。しかしながら連休後は、ごく一部の例外を除き引き続きインバウンド観光客、道外観光客に動意がみられない中、道内観光客も動きが鈍く、客数・客単価ともに苦戦している先が多い模様です。旭山動物園は、週末の悪天候もたたり、5月は△23.5%と再び大幅に減少しました。北海道・道北の観光は、いよいよハイ・シーズンを迎えます。こうした中で観光関連業界等では、北海道観光支援キャンペーンや、道外観光客の避暑需要掘り起こしのための長期割引プランの設定等、道内・道外観光客を呼び込むための様々な取組みが行われています。こうした取組みが少しでも成果をあげてことを期待したいと思います。

- 今月から業種別動向で農作物の生育状況についてコメントします。6月1日現在では、5月の低温や断続的な降雨の影響から、馬鈴しょ、たまねぎ、てん菜などの畑作で植え付け・移植作業が大幅に遅れ、生育も遅れているほか、水稻も移植作業が平年よりやや遅れてることは懸念材料です。ここ数日間、ようやく好天の日が多くなってきました。気温の上昇による今後のキャッチ・アップに期待したいところです。
- 雇用環境は、4月の常用新規求人数が小幅ながら引き続きプラスとなったほか、有効求人倍率も、全ての地区（旭川、稚内、北見、網走）で前年同月を上回るなど、改善の動きがみられており、厳しさの程度は幾分和らいでいます。
- 住宅投資は、下げ止まっています。4月の居住用建築確認申請（床面積）は+9.0%と、5か月連続のプラスとなりました。
- 製造業では、高機能商品への需要シフトから生産を減少させている先もありますが、部材調達のボトル・ネックは徐々に解消しつつあります。また、合板は、被災地における仮設住宅向け需要や同業他社の工場被災に伴う代替需要が強まっていることに伴い、生産・出荷とも増加しています。紙・パルプも、東北に立地する工場被災に伴い、一部製

品を増産する動きがみられています（3月は物流がボトル・ネックとなり出荷は減少しましたが、物流の改善に伴い4月は生産・出荷とも増加しました）。

- 公共工事請負金額は3月（+55.9%）に大幅に増加した後、4月は減少しました。先行きについても、2011年度北海道関係事業費（直轄事業）が5%の執行留保となる等、公共事業を取り巻く環境は引続き厳しいものとなっています。

2011年6月8日

荒木 光二郎